

○広島のカキができるまで

◎宮島水族館

7月～8月 ①採苗(さいびょう) ホタテガイのカラを海につけてカキの幼生を集めるよ。

2ヵ月～12ヵ月間 ②抑制(よくせい) カキの子は、干潮(かんちょう)の時に干上がる場所です。干潮で体力のある強いカキになるんだ。

10月～4月 ④収穫(しゅうかく) 1年半～2年間大事に育てたカキを収穫(しゅうかく)するよ。

約12ヵ月間 ③育成(いくせい) 抑制(よくせい)を終えた強いカキをプランクトンの多い沖合いのイカダにつけて大きく育てるよ。

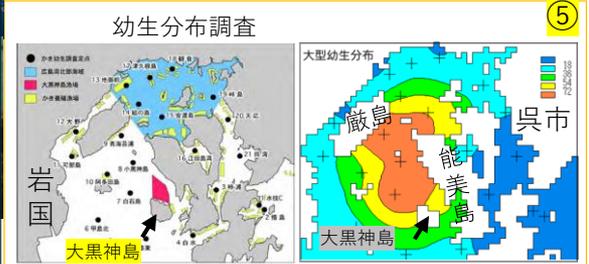
広島県は全国一のカキの産地です。広島湾の浦々でカキ筏を見かけます。カキ筏(いかだ)は約10×20mの大きさがあるので、空撮では美しさがきわだっています。④ センチネル1画像でも独特の美しさが感じられます。悪天候時でも鮮明です。②

宮島水族館の「広島のカキができるまで」という学習資料は、カキ養殖の過程を簡潔に説明しています。③

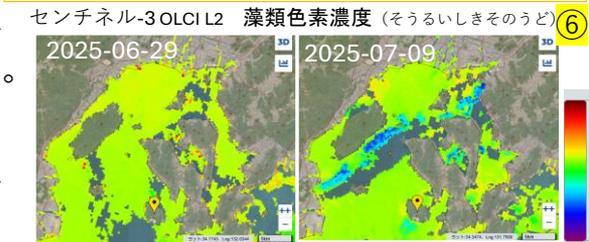
初夏のこの頃カキの幼生は、約2週間、浮遊生活を送り、その後、海水中の固着物に付着します。そこでこの時期にホタテ貝の貝殻(かいがら)を海中に入れておくと、カキの幼生(約0.3mm)が付着します。このように幼生を付着させることを採苗(さいびょう)といい、毎年7月中旬頃から9月中旬頃まで行います。⑦

幼生分布調査を実施して、どこで採苗したらよいかという研究も重ねられています。⑤

海流や風向等も考慮され、大黒神島の北側の海域に採苗のためにカキ筏が集まっているようです。その様子を、センチネル1データで探ってみました。⑧ 幼生が育つためのプランクトン等分布も探ってみました。⑥



2005～2007年6～7月に各3回調査結果 ©広島県 https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/64767.pdf



⑦ カキの幼生を採取する採苗と呼ばれる作業が、広島湾で始まった様子をNHKが昨年放送していました。 https://www3.nhk.or.jp/hiroshima-news/20240723/4000026486.html



⑧ センチネル1データでは、「採苗」のために大黒神島北方に集まるカキ筏の様子が把握できます。

